

我ら新潟市工業高校機械科、昭和34年卒業生

久仁京介

我らは市高卒業から今年63年を数えます。多くの皆は技術関係に進まれたと思いますが、卒業以来まるで違ったジャンルに身を置いている次第です。この新潟市立工業がこのようにして再び脚光を浴び登場してくることは予想だにしていまませんでしたので、奇跡としか思えません。

全卒業生は7000名を欠けるほどと聞きます。それぞれがみな元気でおられたらすごいのはなあとと思いますが、昭和25年の一期生はざっと数えてみても98才とされています。100年時代とはいえ、鬼籍に入られた方も多いのではないかと思われれます。我々もやがて行く道です。「新潟市立工業之跡」の石碑は、今後新潟市の下町に記念碑として保存され顕彰されていく意義は尊いものと思います。

故人となった鶴木清二君が病を押して同級の皆を説得し、つくり残してくれたこの同級会は「久仁京介かこむ会」から久仁京介の名を外しても、嬉しいひと塊のグループとして永久保存されていいものと胸を張れます。もしかしたらですが、奥方の鶴木和佳子さんもお見えになるかも知れません。励ましたり励まされたりという風景になるやもしれません。何よりも今ならまだ体を動かすことも可能です、いや仮に動けないにしても若い者に同行してもらったらい

い。

そんな強気な思いの「新潟市工之跡」除幕式を祝ってみようではありませんか。そして記念写真を撮ってささやかに乾杯をしてみたいと望んでいます。時は令和5年7月30日(日)かつては歩き慣れた通り慣れた道を時代が変わっても、もう一度訪れてみたいものです。